

本会議質問から

第4回定例会では、9人の議員が個人質問を行いました。質問順に主な質問事項は次のとおりです。なお、質問の詳細は熊本市議会ホームページの会議録等をご覧ください。

公明党



井本 正広 議員

質問 1 「二重行政（※2）」は発生しないか？
県・市との間での二重行政を避けなければならないがハード・ソフト整備の両面で二重行政に陥る恐れはないか？

答弁 政令指定都市移行後についても、県と市が連携して取組むことで、二重行政は発生しないものと考ええる。



質問 2 上下水道局新システム開発遅延問題について
検証部会の体制と内容、及び今後の電算システム開発での ICT 技術者（※3）の育成をどうしていくのか？

答弁 局及び市の横断的体制で原因究明など開発作業における全般的な検証を行う。ICT 技術者育成については、市全体で検討していく。

用語解説

※2 二重行政 一般的に、都道府県と市町村が重複する事務を行っていることを指す。

※3 ICT 技術者 情報処理（コンピュータ処理）および情報伝達（通信処理）の、工学およびその社会的な応用技術を持つ者。

自民党



くつき 信哉 議員

質問 1 政令指定都市移行後の線引き（※4）について
線引きについては、結論ありきで進み、住民の理解が得られていない現状では、時期尚早ではないか。

答弁 線引き制度は都市計画の根幹であり秩序ある都市構造の実現のためには大変重要。様々なご意見やご懸念に対応しながら進めたい。



用語解説

※4 線引き 無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るために定める市街化区域と市街化調整区域の区分。

くまもと未来



田尻 清輝 議員

質問 1 少子化対策、特に婚姻の増加推進について
結婚支援事業に対する本市の取組みについてまた、第3子以降の誕生に対し100万円の祝金を贈ってはどうか？

答弁 県の事業推移や他自治体の取組の情報を収集し、祝金については、まずは限られた財源の中で総合的な子育て支援策を推進したい。



用語解説

※5 セントラルパーク構想 花畑公園を中心に、現在ある花畑地区の再開発事業計画地のすべてに芝を張るなどし、本市の憩いの場とする構想。

市民連合



上田 芳裕 議員

質問 1 災害に強い都市・地域づくりについて
住民ニーズに基づき、小中学校体育館以外にも避難所指定を拡大し、いざ災害時の即応力を強化すべきである。

答弁 避難所の今後の指定拡大については、地域の一時避難場所の配置や災害時の開設運営などの課題も考慮しながら検討していく。



質問 2 空き家・放置家屋の管理のあり方について
倒壊の恐れ等、市民の安全を脅かす老朽家屋への対処として、条例を制定し指導強化を行うべきである。

答弁 市民生活の安全・安心を守り倒壊の危険性の観点から、危険家屋対策として条例化の必要性を含めた調査研究を行い、是正に繋げる。

公明党



鈴木 弘 議員

質問 1 総合的な自転車交通対策の確立を！
自転車レーン、レンタサイクル、マナーの向上等を求め、「自転車のまちづくりに関する条例」制定を求める。

答弁 基本計画に基づき市民や関係事業者との協働の下、効率的に各種施策を展開し、自転車が利用しやすいまちづくりを進めていきたい。



質問 2 市街地と空港を結ぶ高速鉄軌道の導入を！
空港と市街地を繋ぐ次世代型高速鉄軌道（LRT：最高速度60キロ、乗車定員149人）の導入を求める。

答弁 今後、新たな都市交通マスタープラン（※6）を策定する中で、中心市街地と空港を結ぶ基幹交通のあり方についても検討していきたい。

用語解説

※6 マスタープラン 基本方針。

自民党



原口 亮志 議員

質問 1 本市農業振興策の重点取組みについて
商工業と農水産業、観光業との連携を深め、東アジア販路開拓を視野にいたした今後の対策について

答弁 農商工連携による付加価値の高い新商品づくりやブランド化を進め香港等の国際食品見本市出展等により、海外への販路拡大を図る。



質問 2 本市と合併町との新市基本計画の持つ意義
合併町の建設計画は、地域にとって合併の是非を占う重要な指標としている、本市はどのように位置づけているか。

答弁 お互いの信頼関係のもとに、合併を決定する上で大きな判断材料となった約束事であり、その実現に向けて誠実に取り組んでいく。

くまもと未来



大石 浩文 議員

質問 1 子育て支援の課題について
負担感が大きく、滞納の増加する保育料の見直しを早急に実施し、障がい児保育の支援策を拡充すべき。

答弁 保育料については、階層区分や徴収金基準額の見直しを検討し、障がい児保育の支援策は、助成制度の見直しを含め、充実に努める。



質問 2 教育環境の整備について
騒音問題和解により子ども達の教育活動が制限されている託麻原小学校体育館の環境改善にどう取り組むのか。

答弁 学校等と協議を行うとともに、早急に騒音の現状や対応策について専門機関の調査を行い、その結果を踏まえ、方策を検討していく。

市民連合



福永 洋一 議員

質問 1 「日本一暮らしやすいくまもと」について
単なるスローガンとならないように、市としての指標により政令指定都市前と後に市民アンケートを実施し、検証を。

答弁 アンケート調査により、市民の満足度を可能な限り把握。もっと暮らしやすさを実感していただけるようなまちづくりに取り組む。

質問 2 熊本型の独自教育の必要性について
「まなびノート（※7）教室」や、熊本の豊かな自然環境と文化を教材にした水と土の「環境教育」「食育（※8）」の充実を。

答弁 「まなびノート教室」のサポーターの人材確保に努める。独自教育として地域や学校の特色を活かしながら体験活動を通じ充実を図る。



用語解説

※7 まなびノート 児童・生徒の基礎学力の充実を図るための問題集として本市が独自に開発・作成したもの。

※8 食育 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。